

---

# 無知と無能

二ヨット

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無知と無能

### 【Nコード】

N4344G

### 【作者名】

ニヨット

### 【あらすじ】

無知であればどんなに良かったかと考えた文章です。

無知はまだ全然いい。無限の可能性を秘めているから……。  
無能は最悪でしかない。

自分は無能な人間だった。例えば、これから同じ作業を一斉に行ってくれと、そういう状況って誰にだってあるだろう。そういう時は決まって置いてかれる。

そして、自分が皆と同じ行動ができなくてとても惨めに見える……。

次に机の上の本の2冊目の教科書の12ページを開い下さいと言われる。緊張のあまりかページどころかどの教科書かもわからなくなってしまう自分がいる。

あいにく、自分はそれを天然なんていう言葉で片付けられるほど、柔軟ではない。

ちっぽけなプライドなんて全部投げるように捨てられたら、どんなに楽か。

間違えても笑い飛ばせる強さが欲しい、迷惑かけても生きなきやいけない欲が欲しい。

無知でいらればどんなに楽なんだろう？

格差はいつだってこの世の中のどんな方向にだって存在している、そうじゃなきゃ、人の均衡が保たれないのだ。だから、無能も生かされる。早くに死ぬ人って意外に能力がある人なんだ。

人間の均衡のために生かされる、どうしたってそう考えが頭から抜けきらない。

それでも僕は生きる事を選び、また皆さんもそうであると思う。  
悩んでない人はいない。

それでも、僕はこの世を平等に見ることなんてできるわけがない。

格差は、生まれた時から存在しているし大人になるに向かって広がっていく。

それでも・・・ぼくは生きていくしかないんだろっつな。

(後書き)

なんとなく、今思ったことを書いてみました。稚拙な文章ですみません、初投稿と夜中ってことで、ちょっと適当になってしまいました

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4344g/>

---

無知と無能

2010年11月2日04時31分発行